

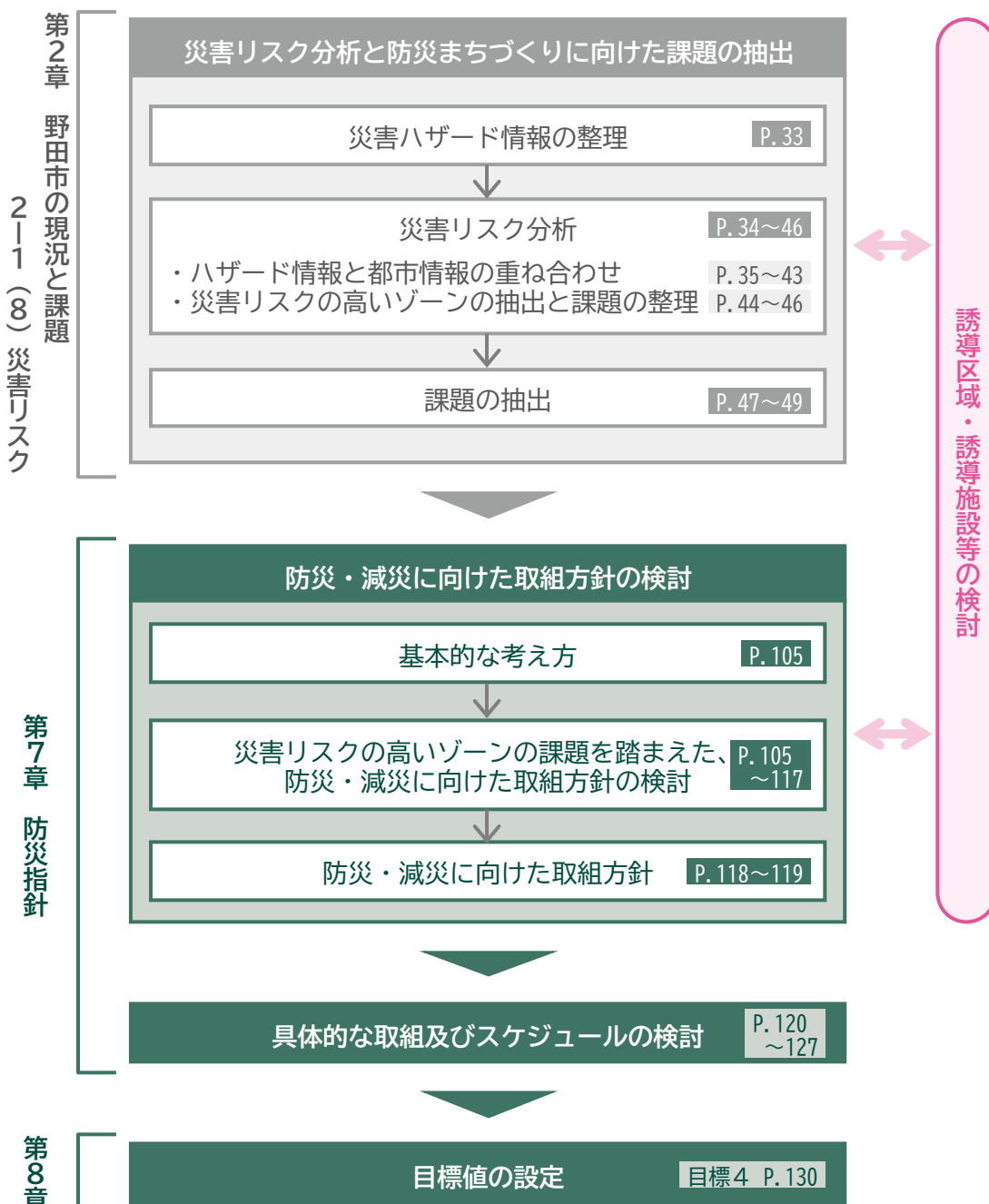
第7章 防災指針

近年、自然災害が頻発・激甚化しており、災害に強いまちづくりとコンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを併せて進めることが重要です。

防災指針では、「第2章 2-1 野田市の現況 (8) 災害リスク」の災害ハザード情報の整理や災害リスクの分析、防災上の課題の整理を踏まえて、防災・減災に向けた取組方針を設定します。さらに、取組方針ごとに具体的な取組及びスケジュールを検討します。

防災指針の検討の流れは、以下のとおりです。

■ 防災指針の検討のフロー図





7-1 防災・減災に向けた取組方針



(1) 防災・減災に向けた取組方針の基本的な考え方

国土交通省の「立地適正化計画の手引き」では、以下のような取組を総合的に組み合わせながら、防災まちづくりの将来像、取組方針を検討することと示されています。

- 災害ハザードエリアにおける立地規制、建築規制（災害リスクの回避）
- 災害ハザードエリアからの移転促進、災害ハザードエリアを居住誘導区域、都市機能誘導区域から除外することによる立地誘導（災害リスクの回避）
- 居住誘導区域等における安全を確保するためのハード、ソフトの防災・減災対策（災害リスクの低減）

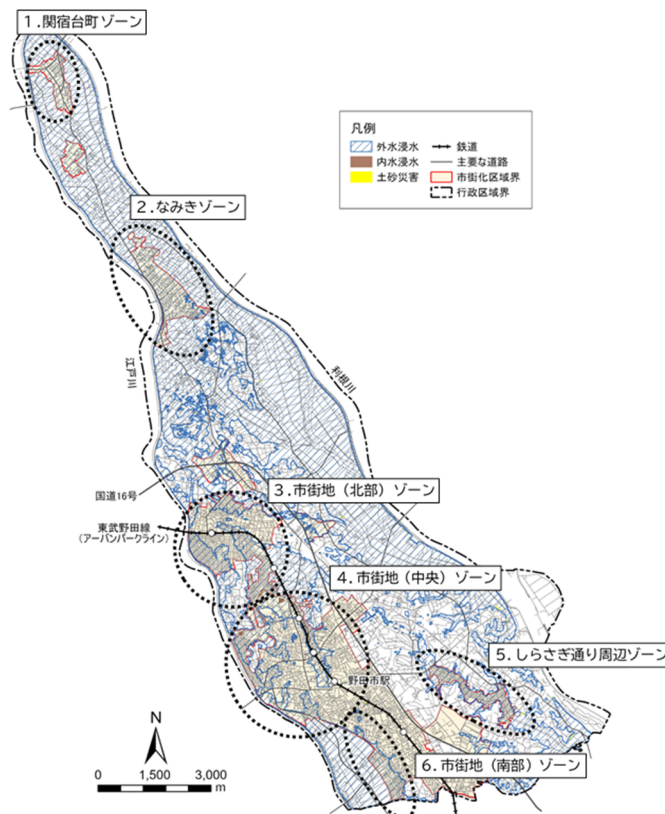
[出典：立地適正化計画の手引き 令和7年（2025年）4月改訂（国土交通省）]

(2) 災害リスクの高いゾーンの課題を踏まえた、防災・減災に向けた取組方針の検討

第2章で抽出した本市の災害リスクの高いゾーンについて、立地適正化計画の手引きの基本的な考え方を踏まえて、各ゾーンの防災上の課題に対する取組方針の検討を行います。

【参考】災害リスクの高いゾーン（高災害リスクエリアの重ね合わせ）

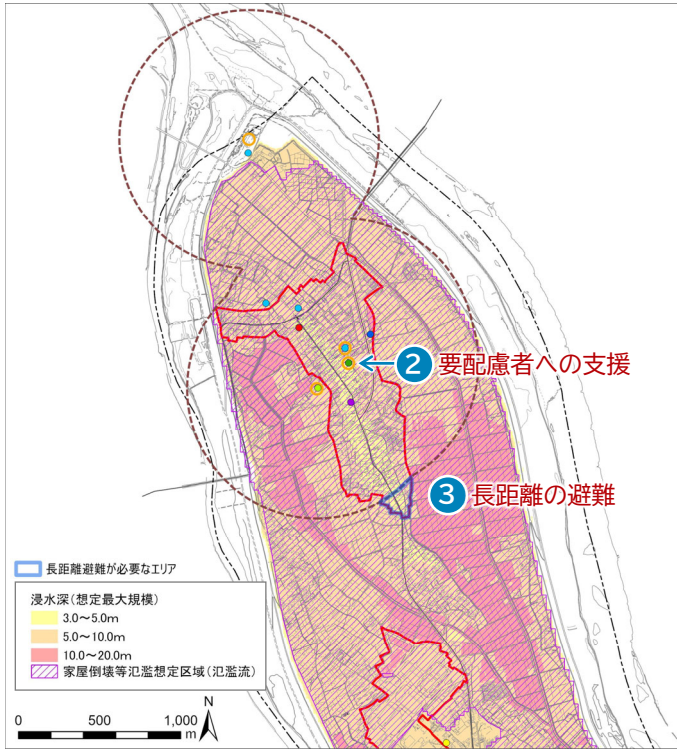
再掲 (P.46)



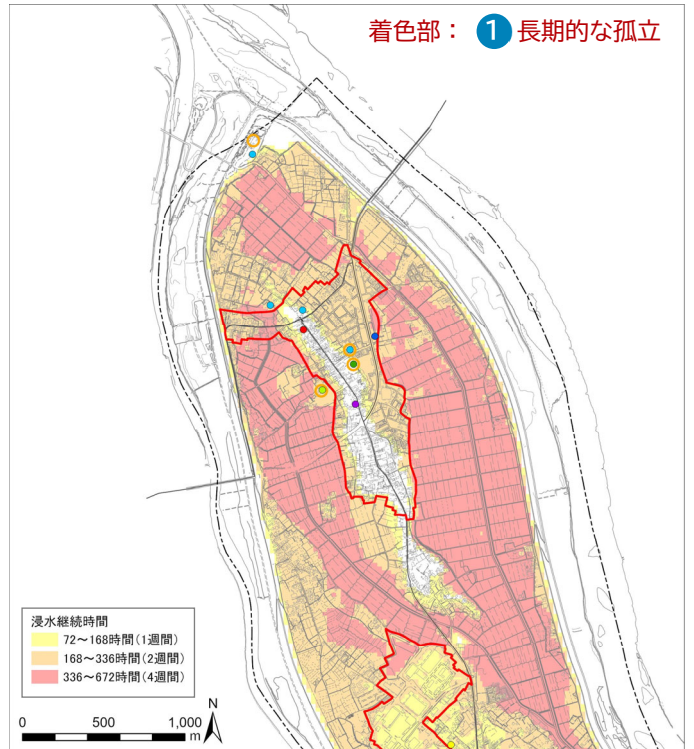
1 関宿台町ゾーンの防災上の課題と取組方針の検討

■ 関宿台町ゾーンの防災上の課題と取組方針の検討

ゾーン全体：垂直避難が困難 避難先の不足
[外水浸水・家屋倒壊等氾濫危険区域]



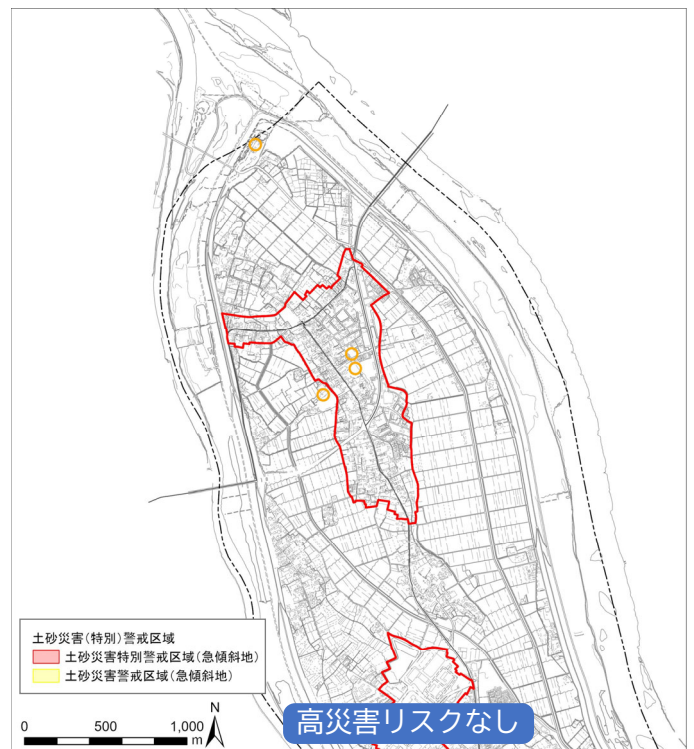
[浸水継続時間]



[内水浸水]



[土砂災害]





	災害リスク	課題	取組方針の考え方
ゾーン全域	洪水	垂直避難が困難 ゾーン内は2～3階の低層戸建住宅が大部分であり、浸水深3m以上で家屋倒壊のリスクもあるため、自宅等での垂直避難が困難	⇒災害リスクの低減 (ハード・ソフト)
		避難先の不足 ゾーン内の全ての避難所に浸水深3m以上の外水浸水リスクがあり、災害時の避難先が不足する可能性あり	
①	洪水	長期的な孤立 3日間以上*継続する外水浸水が想定され、長期的な孤立が懸念	
②	洪水	要配慮者への支援 中学校に浸水深3m以上の外水浸水、家屋倒壊のリスクがあり、災害発生時に要配慮者への支援が必要	
③	洪水	長距離の避難 避難施設 800m圏外に戸建て住宅等が立地し、長距離の避難が必要	

※浸水継続に伴う孤立により各家庭の飲料水や食料等の備蓄が無くなり、健康障がいや生命の危機が生じる可能性がある時間が、浸水継続時間 72 時間（3日間）以上とされている。再掲(P.44)

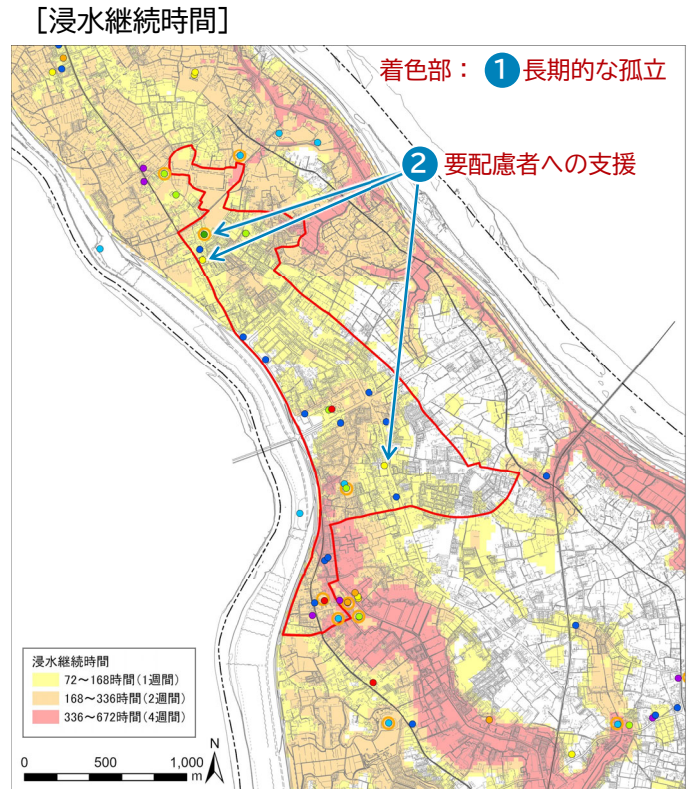
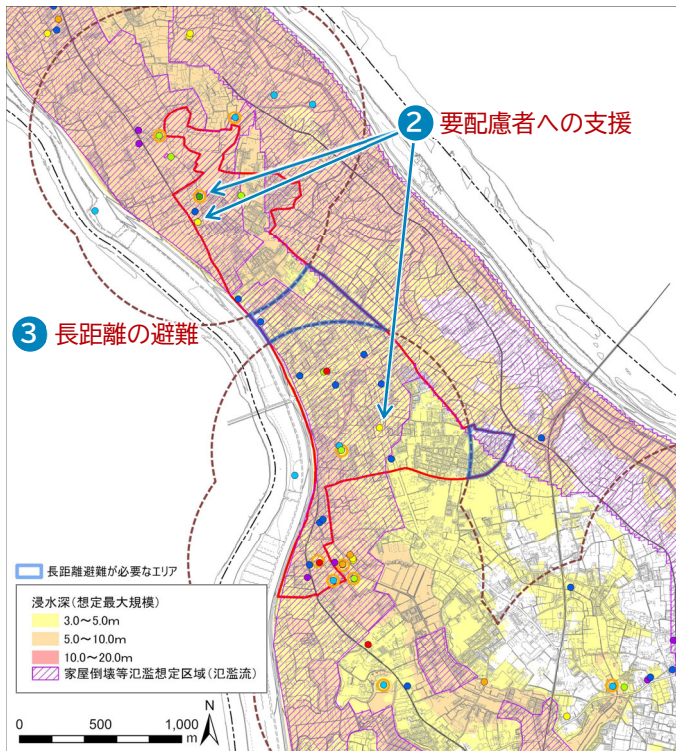
凡例	
都市機能施設 ● 行政施設 ● 医療施設 ● 介護・障害福祉施設 ● 子育て施設 ● 教育施設 ● 文化施設 ● 商業施設 ● 金融施設	避難施設(風水害・土砂災害) □ 指定避難所 ○ 指定緊急避難場所・指定避難所 □ 避難施設800m圏
	□ 行政区域界 □ 市街化区域界 — 主要な道路 ⇄ 鉄道

2 なみきゾーンの防災上の課題と取組方針の検討

■ なみきゾーンの防災上の課題と取組方針の検討

ゾーン全体：垂直避難が困難 避難先の不足

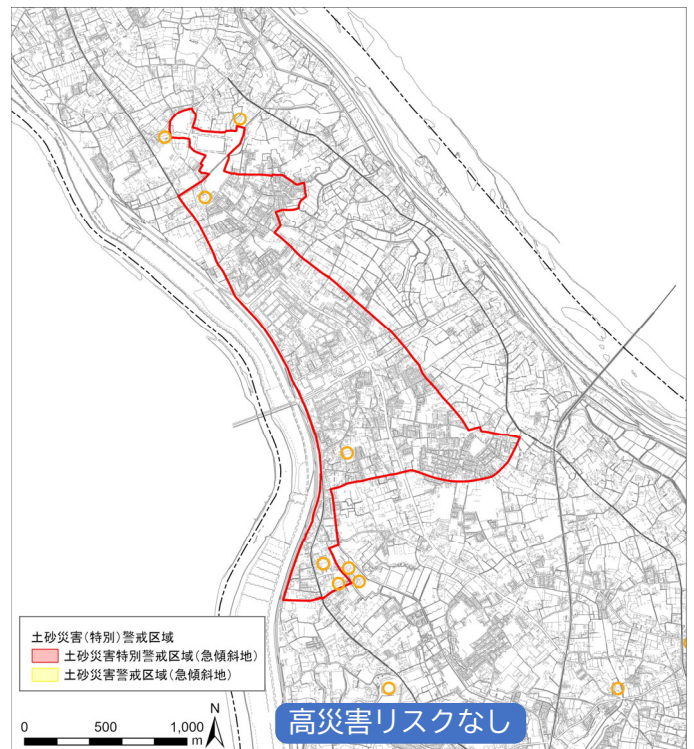
[外水浸水・家屋倒壊等氾濫危険区域]



[内水浸水]



[土砂災害]





	災害リスク	課題	取組方針の考え方
ゾーン全域	洪水	垂直避難が困難 ゾーン内は2～3階の低層戸建て住宅が大部分であり、浸水深3m以上で家屋倒壊のリスクもあるため、自宅等での垂直避難が困難	⇒災害リスクの低減 (ハード・ソフト)
		避難先の不足 ゾーン内の全ての避難所に浸水深3m以上の外水浸水リスクがあり、災害時の避難先が不足する可能性あり	
①	洪水	長期的な孤立 ゾーンの大部分に3日間以上*継続する外水浸水が想定され、長期的な孤立が懸念	
②	洪水	要配慮者への支援 中学校や介護施設に浸水深3m以上や3日間以上*継続する外水浸水、家屋倒壊のリスクがあり、災害発生時に要配慮者への支援が必要	
③	洪水	長距離の避難 避難施設 800m圏外に戸建て住宅等が立地し、長距離の避難が必要	

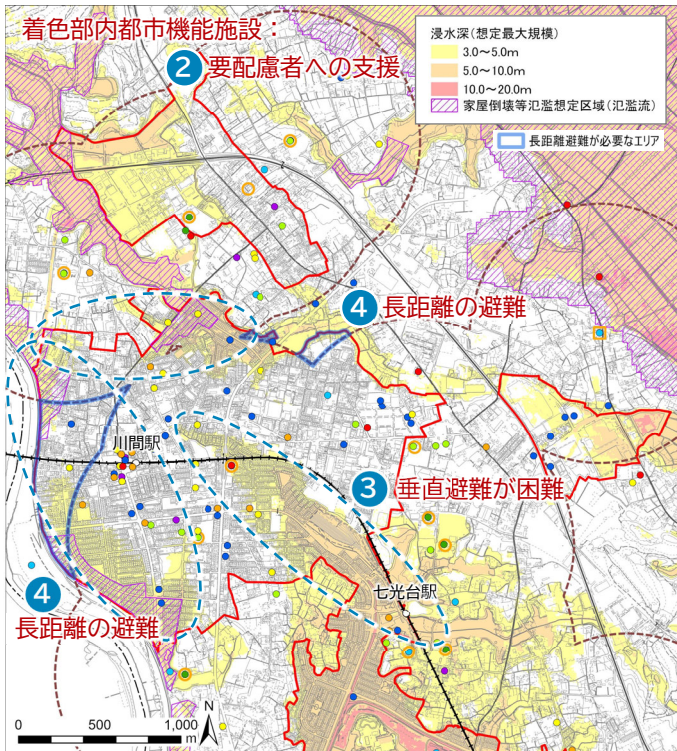
*浸水継続に伴う孤立により各家庭の飲料水や食料等の備蓄が無くなり、健康障がいや生命の危機が生じる可能性がある時間が、浸水継続時間 72 時間（3日間）以上とされている。再掲(P.44)

凡例	
都市機能施設 <ul style="list-style-type: none"> ● 行政施設 ● 医療施設 ● 介護・障害福祉施設 ● 子育て施設 ● 教育施設 ● 文化施設 ● 商業施設 ● 金融施設 	避難施設(風水害・土砂災害) <ul style="list-style-type: none"> □ 指定避難所 ○ 指定緊急避難場所・指定避難所 ⊞ 避難施設800m圏
	<ul style="list-style-type: none"> ⬜ 行政区域界 ▭ 市街化区域界 — 主要な道路 ⇄ 鉄道

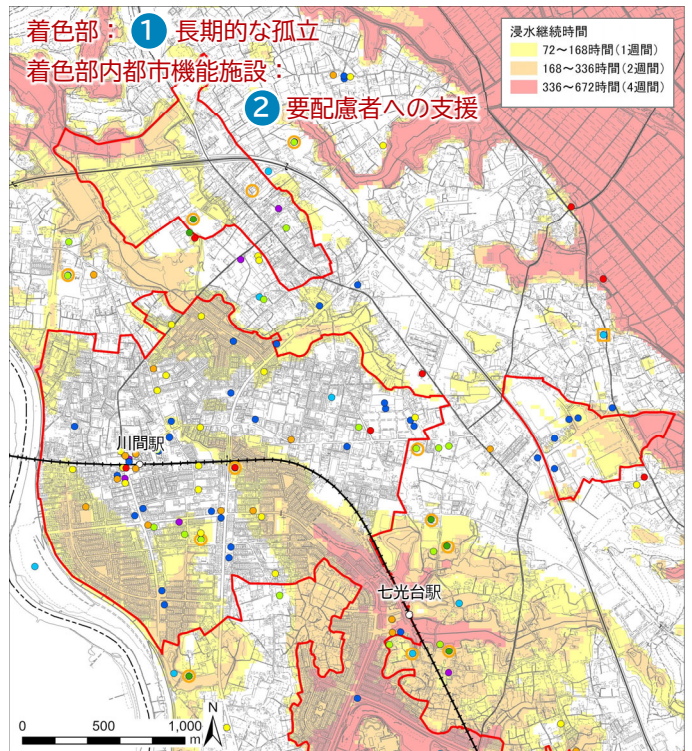
3 市街地（北部）ゾーンの防災上の課題と取組方針の検討

■ 市街地（北部）ゾーンの防災上の課題と取組方針の検討

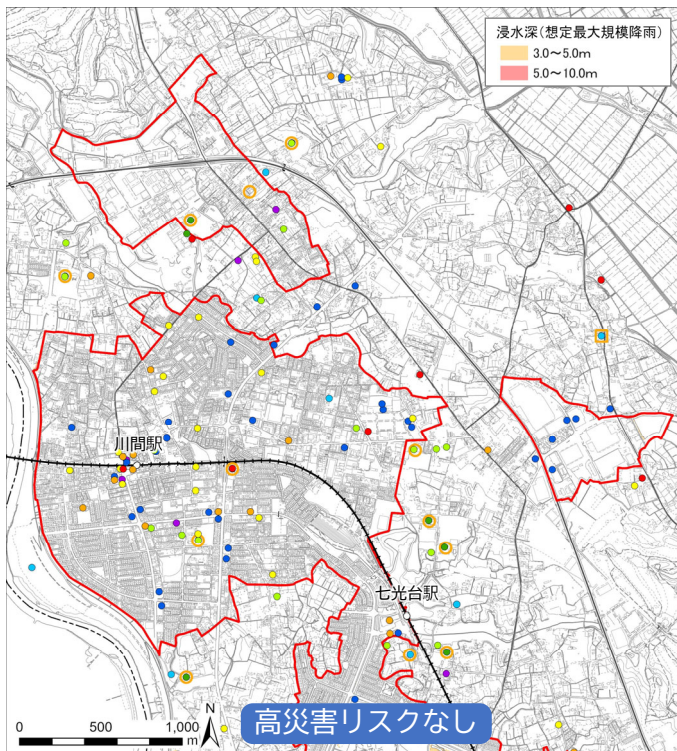
[外水浸水・家屋倒壊等氾濫危険区域]



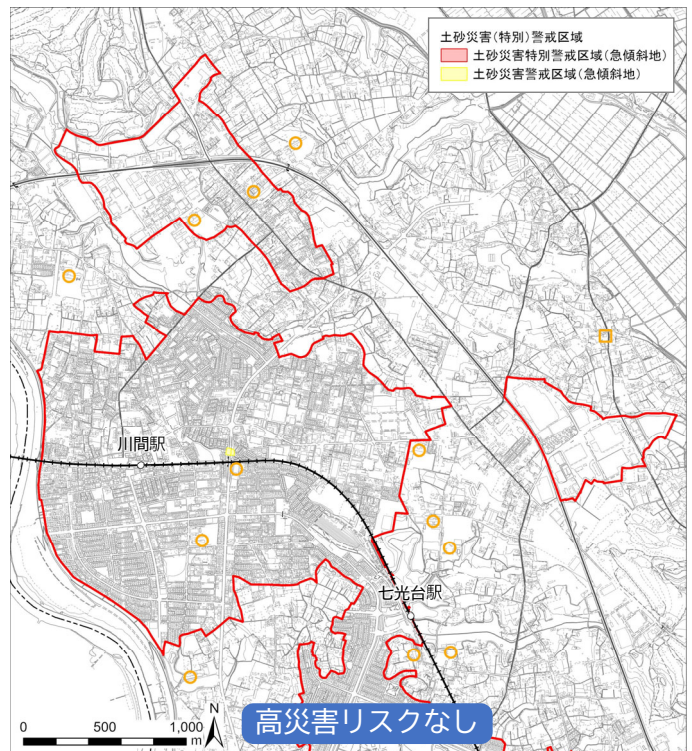
[浸水継続時間]



[内水浸水]



[土砂災害]





	災害リスク	課題	取組方針の考え方
①	洪水	長期的な孤立 3日間以上※継続する外水浸水リスクがあり、長期的な孤立が懸念	⇒災害リスクの低減 (ハード・ソフト)
②	洪水	要配慮者への支援 ゾーン内の小学校、介護施設、医療施設に浸水深3m以上や3日間以上※継続する外水浸水のリスクがあり、災害発生時に要配慮者への支援が必要	
③	洪水	垂直避難が困難 2～3階の低層戸建て住宅や小売店舗が大部分であり、浸水深3m以上で一部に家屋倒壊のリスクもあるため、自宅等での垂直避難が困難	
④	洪水	長距離の避難 避難施設 800m圏外にまとまった住宅団地が存在し、長距離の避難が必要	

※浸水継続に伴う孤立により各家庭の飲料水や食料等の備蓄が無くなり、健康障がいや生命の危機が生じる可能性がある時間が、浸水継続時間 72 時間（3日間）以上とされている。再掲(P.44)

凡例		
● 行政施設	避難施設(風水害・土砂災害)	⬜ 行政区域界
● 医療施設	□ 指定避難所	▭ 市街化区域界
● 介護・障害福祉施設	○ 指定緊急避難場所・指定避難所	— 主要な道路
● 子育て施設	⬜ 避難施設800m圏	⇄ 鉄道
● 教育施設		
● 文化施設		
● 商業施設		
● 金融施設		